

# 中国シルクロード 第1回

素材研究  
(特別編)

嘉峪関



## 2015年観光年を迎えた「中国シルクロード」 それは西域との交易拠点、古都・西安から始まる

国連教育科学文化機関（ユネスコ）世界遺産委員会は昨年6月、中国がカザフスタン、キルギスと共同申請していたシルクロードの世界文化遺産登録を決定しました。中国国家観光局は、このシルクロードの世界遺産登録を受けて、美しい中国へ新シルクロード・新体験・新感覚というテーマを掲げ、「2015中国シルクロード観光年」として、日本市場で改めてシルクロードをアピールしていきます。

### 「シルクロード経済圏」の追い風に

シルクロードは、言うまでも

#### 連載スタート

今号より「素材研究・特別編」として中国の魅力を紹介するシリーズをスタートします。悠久の歴史や豊かな文化、広い国土や雄大な自然など、DESTINATIONとしての奥深い魅力を「シルクロード」「大運河」「世界遺産」といったテーマに沿って掘り下げていきます。ご期待ください。



「20世紀最大の発見」と言われた西安郊外の兵馬俑

なく、中国と中央アジアを横断する歴史的な交易路であり、紀元前2世紀ごろから形成されたことは周知の通りです。世界文化遺産の登録を決めた世界遺産委員会は、その意義を「東西間の融合と交流、対話の道であり、人類の共同繁栄に重要な貢献をした」と評価しました。世界文化遺産に登録されたのは、中国と欧州を結んだシルクロードのうち、長安（現在の西安）や洛陽から敦煌を経て中央アジアに至る「天山回廊の道路網」で、全長は約8700キロ

にも及びます。3カ国での構成資産は33カ所を数え、中国国内では、唐の玄奘三蔵が持ち帰った経典などを保存するため建立された西安の大雁塔をはじめ、交易による繁栄を背景につくられた都市や宮殿、仏教寺院など22カ所に達しています。

また、中国の習近平国家主席は、中国を起点に中央アジアから欧州に至る「シルクロード経済圏」と、中国沿岸部からアラビア半島までを結ぶ海上交通路「21世紀の海のシルクロード」を提唱し、両者をまとめた「二帯一路」構想を通じて、圏域における経済交流の拡大などを目指しており、シルクロードの世界文化遺産登録とそれに続く「2015中国シルクロード観光年」の展開は、同構想を後押しする強力な追い風と言えるものです。

### 世界へ文明国家として存在 アピール

西安に都が置かれたのは、周の武帝が殷を滅ぼした紀元前11世紀のことで、紀元前350年には中国の統一を果たした秦



唐の玄宗皇帝が楊貴妃とともに過ごした華清池

が西安近郊の咸陽に都を開き、それ以降、漢、隋、唐など13の王朝の都として栄えました。現在の位置に都が築かれたのは、紀元前202年に成立した漢の時代からで、前漢時代に拡大された長安城が、西域との交易路であるシルクロードの起点となりました。

唐代に栄華を極めた長安には、仏教などの文化をはじめ、絹や香辛料などの産物も行き交って、コスモポリタンシティとして世界中から多くの人々も集まり、国際社会に文明国家としての中国の存在を知らしめることになりました。

現在も残されている城壁は西安古城壁として、近年になってから修復整備されたもので、東西南北に城門を構える城壁の上からは旧城の内外を見渡すことができます。



新疆ウイグル自治区にあるスバシム遺跡

2014年に世界文化遺産に登録されたシルクロードの構成資産のうち、西安にあるのは、大雁塔、小雁塔、唐長安城大明宮遺跡、漢長安城未央宮遺跡、興教寺の5カ所です。

玄奘三蔵がインドから持ち帰った經典の翻訳と保存のために7世紀半ばに創建された大雁塔は、大慈恩寺の境内にあり、門前には玄奘三蔵の像が立っています。大薦福寺の境内に建てられた小雁塔は、義浄がインドから持ち帰った經典の翻訳が行われた場所で、9世紀半ばには日本から訪れた慈覚大師が逗留したこともありま

す。2010年から公開されている大明宮遺跡は、唐の長安城の三大宮殿の一つで、7世紀前半に造営されました。漢の長安城の史跡である未央宮は、漢の高

祖、劉邦が造営した皇宮です。漢の長安城は武帝の時代に拡張されており、東西の城壁や長樂宮などの遺構も残されています。

興教寺は、西安市の南約20キロに位置しており、玄奘三蔵の遺骨を納めるために7世紀半ばに創建された古刹です。

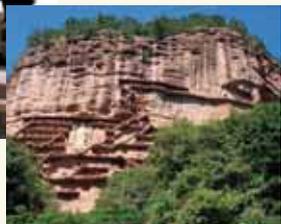
### 20世紀最大の発見と言われた兵馬俑

西安は、また、多くの博物館があることでも知られています。碑林博物館は、漢代から清代に至るまで3000を超えている石碑が保存されており、公用文や經典、書、墓標など様々な文書を掘った石碑は、まさに、歴史の生き証人と言えます。また、1991年に開設された陝西歴史博物館は、大雁塔の近くに位置し、陝西各地から出土した物などが年代別に展示されており、地下にある20カ所の唐墓から出土した壁画は圧巻です。

遣唐使として唐に渡った弘法大師・空海が中国密教界の第一人者である恵果阿砂利の教えを受けた青龍寺や唐代の繁栄を体感できるテーマパークの大唐芙蓉園なども、西安の歴史を物語る貴重な存在です。



新疆ウイグル自治区にあるキシル石窟



甘肅省にある麦積山石窟

今から約40年前、近郊の農民が井戸を掘っている時に陶片を見つけ、その存在が明らかになった兵馬俑は、西安市の東約30キロにあります。20世紀最大の発見と言われた兵馬俑は、13号坑の発掘が終わって車兵俑と歩兵俑、騎兵俑などが軍陣をとり、2000年余の時を超えて整然と並んでいます。秦始皇陵と兵馬俑館は1987年、秦陵博物院として世界遺産に登録されました。

その始皇帝も利用したと伝えられる華清池は、西安の北東約30キロに位置する温泉保養地です。唐の玄宗皇帝が華清宮として宮殿式の湯殿を造営し、楊貴妃とともに過ごしたことで知られています。

### 無形文化遺産の実演や華やかな民族舞踊も「ツーリズムEXPOジャパン2015」で20ブース

中国国家観光局は9月26日と27日の両日、東京・有明の東京ビックサイトで開催される「ツーリズムEXPOジャパン2015」の展示会で20ブースを出展し、中国からは22の省や市、観光局などから70人



出展エリアでは音楽や民族舞踊のパフォーマンスも

以上の関係者が参加を予定しています。シルクロードや中国各地の様々な観光情報を紹介するほか、昨年の倍以上となった出展エリアでは、中国の無形文化遺産である書道・篆刻の著名な先生による実演や色鮮やかな衣装を着て踊る華やかな民族舞踊も楽しめます。また、業界日の25日には、上海市と貴州省のセミナーを開催。ブースでも懇親交流会を実施し、昨年よりパワーアップしたブースで旅行業界関係者に有意義な現地の最新情報を提供します。

### 蘭州／ウルムチ間に高速鉄道が開通 沿線を彩る多様なシルクロードの見所

蘭州とウルムチを結ぶ高速鉄道が昨年12月24日に開通し、同区間を最短11時間50分で結んでいます。甘肅・青海・新疆の3省区を貫く全長1776キロに及び路線を時速200～250キロで走る蘭新高速鉄道は、シルクロードを辿る旅行の利便性を大きく高めました。中国で最も海拔の高いエリアを走る高速鉄道として人気を集める沿線には、オアシスや砂漠、仏教芸術、独特な地形の景勝地など、シルクロードならではの見所が連なっています。



砂漠を行くラクダはシルクロードの原風景

北西へ移動するにつれて色濃くなっていくアジア文明と欧州文明が交わる中央アジアの風土や文化を体感することができるのも、蘭新高速鉄道ならではの魅力です。